

「北海道・三陸沖後発地震注意情報に伴う 特別な注意の呼び掛けの期間の終了」に伴う市民の皆様へのお願ひ

青森県東方沖の地震発生から1週間が経過したことから、令和7年12月16日（火）午前0時をもって、特別な注意の呼び掛けの期間は終了しました。

なお、呼び掛け期間は、防災対応を送りながら生活をする上で我慢できる限度として設定された期間であり、過去の世界的な事例を見ても、マグニチュード7.0以上の地震発生から1週間以上経過した後に、大規模地震が発生した事例もあります。また、先発の地震がなく、突発的に大規模地震が発生する可能性もあります。

依然として、大規模地震の発生の可能性がなくなったわけではありませんので、「日ごろからの地震への備え」については、引き続き実施をお願いいたします。

【日ごろからの備えの例】

●防災意識の醸成

お正月や年末年始の帰省・集まりの機会に、家族や友人と「いざという時の対応」など、防災について話し合いましょう。

●家族間でのルール作り

災害時の通信途絶を前提に、家族が離れていても自己判断で避難等ができるよう、避難判断、避難方法、避難先、安否確認や集合場所のほか、家族を待たない、迎えに行かないなど二次被害の回避の対応も決めましょう。

●家具などの固定

家具などの転倒による死亡事故、食器類の飛散、ガラスの破損、電化製品の落下や移動などによる怪我で避難できない又は避難の遅れを防ぐため、対策がお済みでない場合は、年末の大掃除のついでに家具など固定の対策をしてください。出火防止対策の観点から、感震ブレーカーの設置も推奨します。

●非常用備蓄品の充実

大規模災害時は、支援物資到着までに時間を要します。食料や日常品など、買い物ついでに少しづつ買いつし、古い物から消費するローリングストックを実践し、1週間から1か月程度の備蓄をしてください。

●非常持出品の準備

食料や水のほか、携帯トイレ、持病薬、生活必需品、衛生用品、非常用ライトなど、「ないと困る物」を個人の必要に応じてリュックなどに入れ、いつでも持ち出せるよう準備をしてください。

●防寒対策

これから厳冬期を迎えます。低体温症を防ぐため、熱を逃がさない工夫と冷たい空気の浸入遮断のため、保温性が高く防風性の強い防寒服、首筋、手首、足首などを隠せるマフラーや手袋、靴下や帽子などに加え、使い捨てカイロ、携帯用アルミシートやヒートベストなども活用しましょう。

●避難場所や避難経路の確認

自宅や職場、日常的に利用する場所や旅行先など、あらゆる場所で避難が必要な事態を想定し、ハザードマップの確認、避難経路や津波避難ビルなどの避難先を事前に確認しておきましょう。

●津波避難の原則は徒歩避難

市街地での自動車避難は、渋滞や路面凍結による事故のほか、徒歩避難者の避難を阻害するおそれがあります。自動車避難は、一人で避難ができない方や特に配慮を要する方が優先できるようご理解とご協力ををお願いいたします。

令和7年12月16日

石巻市危機管理部危機対策課